



JAPAN CAR AUDIO COMPETITION ASSOCIATION



Official Competition Manual 2024

目次

1	European Mobile Media Association(EMMA)によろこそ！	1
1.1	歴史と序文	1
1.2	EMMA の綱領	1
1.3	コンペティションの課題	1
1.4	コンペティションの精神	1
2	EMMA カテゴリとクラス	2
	EMMA C(Challenge)	2
	EMMA E(Entry)	2
	EMMA S(Skilled)	2
	EMMA M(Master)	3
	EMMA X(Expert)	3
3	EMMA ルール インストールのクオリティ	3
3.1	インストールのルール: E(Skilled) カテゴリ	3
3.2	インストールのルール: S(Skilled) カテゴリ	4
3.3	インストールのルール: M(Master) カテゴリ	5
3.4	インストールのルール: X(Expert) カテゴリ	7
4	EMMA ルール サウンドクオリティ	9
4.1	審査前のチェック	9
4.2	イメージング特性	10
4.3	サウンドステージとイメージング特性	11
4.4	音色の正確性	11
4.5	スペクトルバランス	12
4.6	リスニングの満足感	12
4.7	調整	13
4.8	人間工学	13
5	全般的なコンペティションのルールと手順	14
5.1	全般	14
5.2	登録	14
5.3	エントリー条件	15
5.4	コンペティション当日について	16
5.5	イベントの種類	17
5.6	エチケット	18
5.7	抗議について	19
5.8	抗議の要求手順	20
5.9	インストールクオリティ審査中の手順とルール	20
5.10	サウンドクオリティのカテゴリとクラス	21
5.11	音楽の再生	21
5.12	価格制限クラス	22
5.13	カテゴリ/クラスの変更	23
5.14	SQ 審査について	23
5.15	シングルシート審査	23
5.16	サウンドクオリティ審査中の手順とルール	23
6	審査マトリックス	25

European Mobile Media Association (EMMA) によろこぞ！

1.1 歴史と序文

EMMA は、欧州におけるサウンドクオリティのコンペティションに公平な競争の場を提供し、欧州大陸全域で用いられている様々なルールを統一するために設立された団体です。カーオーディオコンペティションは米国にルーツがあり、米国で当初設立された団体がサウンドクオリティイベントのコンペティションマニュアルを定めていました。EMMA インターナショナルは、世界各国の EMMA カーオーディオ協会を統括する団体で、毎年開催する国際的なヘッドジャッジ研修、ルールブックの標準化、コンペティションメディア作成等の責任を負っています。EMMA インターナショナルのウェブサイトは、サウンドクオリティコンペティションに関する重要な情報を提供しています。本書は冊子版の EMMA ルールブックであり、ユーロファイナルならびにすべての国内団体から近年のすべての結果を収集し、それに基づいて、コンペ参加者が理解し遵守するのが容易で公平なルールブックを作成したものです。またこのルールについては、カーオーディオ業界発展のために努力を続ける諸団体の成果の一つとして認められることを EMMA は心から願っています。

1.2 EMMA の綱領

European Mobile Media Association(EMMA)の使命は、全世界の国内カーオーディオ団体から成る独立グループにガイドラインを提供することにあります。そして、コンペティションを開催できるルールとレギュレーションを定めています。EMMA の目標は、加盟国全てで平等な共通のレベルによる公平なコンペティションを促進し、そうしたイベントの発展を促すことです。また、国際的なカーオーディオとマルチメディアの選手権大会を毎年開催することも目指しています。さらに EMMA は、コンペティションの参加者とオーディオインストーラーの両方が、使用している装置について知識を深めることも応援しています。そうした知識を深化できれば、インストールした装置のクオリティが高まり、装置が最高のパフォーマンスを示すことができ、また最終的にはコンペ参加者や顧客の満足につながるはずです。

1.3 コンペティションの課題

サウンドクオリティにおける課題は、自動車の音響特性上の問題を克服できるオーディオシステムまたはマルチメディアシステムを構築し、ノイズや歪みなく音楽を再生し、まるで「オリジナル」のような音楽サウンドを作り出すことにあります。

1.4 コンペティションの精神

EMMA は「欧州や世界で誰がトップなのか」を明らかにしたいというコンペティション参加者の欲求を満たすために設立されました。現代の高性能なカーオーディオ装置はサウンドを正確に大音量で再生することができ、しかもそれが再生であるように聞こえることはありません。しかし EMMA が危惧しているのは、リスニングする上で最も大事な器官、すなわち耳には限界があるということ、一部の人は忘れていないのではないか、という点です。最も憂慮しているのは、熱狂のあまり極度の音量で耳を痛めつけ、それほどまでに愛した音楽を聴くことができなくなる事態です。このルールブックは EMMA の国際的なヘッドジャッジとスーパーバイザーが議論を重ねた上で執筆し、Costas Christopoulos(ギリシャ)、Ronald van Looij, Reinier & Carel Wolf(オランダ)、Werner Rothschof(オーストリア)、Prapasakorn Bhucksasri(フィリピン)、Per Söder(スウェーデン)、Gennady Litvin(ロシア)、Antero Kölli(フィンランド)、Steffen Schmidt (デンマーク)、Somkiat Pookayaporn(タイ王国)、Chris Körbel, Norbert Tyka, Jan Schleicher, Lars Neuper, Rene Krosse, Volker Simmer & Alex Klett(ドイツ)、Francesco Richichi(イタリア)、Ketil Skjei(ノルウェー)、Cristian Martin, Kevin Hall, Horst Starke & Andrew Ackerley(イギリス)の支援によって完成したものです。

免責規定

EMMA 公認のいかなるイベントにおいても、コンペティション参加車両、装置、その他の品目に対する損害または損失について、EMMA が直接的または間接的にその責任を負うことはないものとします。さらに EMMA はコンペ参加者ならびに一般の方にも聴力を保護することを強く推奨します。

EMMA は登録商標です

EMMA の公式ルール、スコアシート、その他の関連資料、CD、DVD、MP3 や AAC などの提供されたオーディオファイルなどのすべてのコピーと、ブランド名およびロゴの使用については、European Mobile Media Association のオーナーの承認が必要です。

2 EMMA カテゴリとクラス

2.1 サウンドクオリティのカテゴリとクラス

EMMA C(Challenge)

- 3000ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可、インストール審査はアドバイスのみ ※P22(5.12 価格制限クラス)参照下さい
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可、インストール審査はアドバイスのみ

インストール:

インストール審査はありません - 文書/プレゼンテーションは要求されません

制限事項:

- インストールの制限はありません

EMMA E(Entry)

- 3000ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P22(5.12 価格制限クラス)参照下さい
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可

インストール:

- 基本的なインストールのみ ※P26(6.審査マトリックス)参照下さい
- プレゼンテーションは必要ありません
- 隠れて見えないコンポーネントは文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- スポンサーを受けていない
- 新規エントリー限定クラス(過去に EMMA コンテストに参加したことが無い方)
- ジャッジや業界関係者ではない
- 改良した装置や自作の装置(たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど)の使用は禁止
- インストールの制限はありません

EMMA S(Skilled)

- 4000ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P22(5.12 価格制限クラス)参照下さい
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可

インストール:

- 平均的なインストール審査 ※P26(6.審査マトリックス)参照下さい
- プレゼンテーションは必要ありません
- 隠れて見えないコンポーネントは文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- スポンサーを受けていない
- ジャッジや業界関係者ではない
- 改良した装置や自作の装置(たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど)の使用は禁止
- インストールの制限はありません

EMMA M(Master)

- 8000ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P22(5.12 価格制限クラス)参照下さい
- 無制限 ※プロもエントリー可

インストール:

- 中程度のインストール審査 ※P26(6.審査マトリックス)参照下さい
- 文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- ジャッジや業界関係者ではない
- 改良した装置や自作の装置(たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど)の使用は禁止(無制限クラスは可)
- インストールの制限はありません

EMMA X(Expert)

- 無制限 ※プロもエントリー可

インストール:

- 最高レベルのインストール審査 ※P26(6.審査マトリックス)参照下さい
- 詳細な文書が必要です
- プレゼンテーションが必要です
- システム図や配線図は必要です
- 車両全体のデザインが加点されます

規制:

- 車両は車検に登録されていなくても構いません
 - 車両は運転手が座って運転出来なければなりません
 - ボーナスポイントは100ポイントです
- プレゼンテーションの制限時間は 15 分以内

3 EMMA ルール インストールのクオリティ

システムの耐久性と長寿命、論理的統合、視覚的印象を高めるため、インストールのクオリティに関する審査基準を定めています。インストールクオリティの審査は、(カテゴリに応じ)1名ないし2名のインストールジャッジが本公式ルールブックに従って行います。インストールジャッジは、インストールクオリティを判断できるよう、本ルールブックによる特別な研修を受けて資格を取得します。インストールクオリティの審査後、コンペ参加者は車両へのインストールクオリティに関し、本ルールブックが対象とする点について専門家による客観的な情報をフィードバックとして得ることができます。

EMMA ではインストールを、わかりやすい分類に従って審査できる複数の項目に分解しています。ジャッジがコンペ参加者に対して「あなたの車のインストールは良い悪い、あるいはあなたは何ポイント獲得した」などと発言することはありません。ジャッジは専門家としての審査とスコアシートを使って、関連するすべての詳細な項目についてインストールのクオリティを正確に説明します。

つけられたスコアはコンペ参加者にとって理解しやすいものであり、必要ならばEMMAルールブックを見て容易に理解できます。さらにコンペ参加者は自身のシステムインストールの可能性について学ぶこともできます。ジャッジは、オーディオシステムのインストールを改善するにはどうすればいいかのヒントや参考意見をコンペ参加者に与えることが認められています(ただしブランド名を使用しないで)。それによってコンペ参加者、ディーラー、友人は、装置のインストールと潜在的な利用法を改善することができます。

3.1 インストールのルール:E(Entry)カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中観客に車両とインストールを見せてください。サウンドシステムを聞かせるようにしてください。システム図を用意してください。1日に数回チェックされます。

クリーン (0~6)

車両外部は洗車、インテリアは掃除機で清掃されていなければなりません。

洗車されているか y/n、車室内は掃除機で清掃されているか y/n、エンジンやトランクにインストールされたコンポーネントは清掃されているか y/n(清掃されていない箇所に付き 2 点を差し引きます)

システム図/配線図 (0~4)

システム図と配線図がそれぞれある場合は各 2 点。

メインヒューズ (0 または 10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラスのバッテリーポストから 40cm 以内に、もしくは金属パネルを通過する前にヒューズを取り付けなければなりません。電源回路図が無い場合は 0 点になります。

コンポーネントの確実な取り付け (0~24 ポイント)

全てのコンポーネントが固定されているか確認します。

ヘッドユニット y/n、その他のデバイス y/n、アンプ y/n、スピーカー y/n(固定されていない箇所毎に 2 点を差し引きます)

スピーカーの保護 (0~5 ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例:A ピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径 3cm の円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができずにはいけません。スピーカー当たり少なくとも 1 個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに 2 点を差し引きます)他のスピーカーは保護が必要ありません。

インストールの視覚的第一印象 (0~10 ポイント)

コンポーネントのインストールが完了していることかを確認します。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス(取り付けが完了していないコンポーネントごとに 1 点を差し引きます)

3.2 インストールのルール: S (Skilled) カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中観客に車両とインストールを見せてください。サウンドシステムを聞かせるようにしてください。システム図を用意してください。1 日に数回チェックされます。

クリーン (0~6)

車両外部は洗車、インテリアは掃除機で清掃されていなければなりません。

洗車されているか y/n、車室内は掃除機で清掃されているか y/n、トランクは掃除機で清掃されているか y/n(清掃されていない箇所に付き 2 点を差し引きます)

システム図/配線図 (0~4)

システム図と配線図がそれぞれある場合は各 2 点。

メインヒューズ (0 または 10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラスのバッテリーポストから 40cm 以内に、もしくは金属パネルを通過する前にヒューズを取り付けなければなりません。電源回路図が無い場合は 0 点になります。

コンポーネントのヒューズ (0~15 ポイント)

オーディオに関連する全てのコンポーネントのヒューズを確認します。全てのヒューズは 3 分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ(ヒューズが取り付けられていないもしくは確認出来ない場合、コンポーネントごとに 2 点を差し引きます)電源配線図が審査に必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0~20 ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けられているか確認します。

ケーブルサイズ(mm2)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

全てのヒューズは3分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。(ヒューズが取り付けされていないもしくは確認出来ない場合、サイズが適切では無い場合、ヒューズごとに2点を差し引きます)

視界から隠したインテリアケーブル (0~5ポイント)

運転席から全ての取り付けたシステムのケーブルが視認できないことを確認します。視認できるケーブルごとに2点を差し引きます。

スマートフォン、タブレット、ストレージなどのモバイル機器を接続するケーブルは見えていても構いません。

コンポーネントの確実な取り付け (0~24ポイント)

全てのコンポーネントが固定されているか確認します。

ヘッドユニット y/n、その他のデバイス y/n、アンプ y/n、スピーカー y/n(固定されていない箇所毎に2点を差し引きます)

スピーカーの保護 (0~5ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例:Aピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径3cmの円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができずにはいけません。スピーカー当たり少なくとも1個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに2点を差し引きます)他のスピーカーは保護が必要ありません。

通常の車両使用 (0~6ポイント)

運転席/助手席共に快適に座る事が可能か、車両操作が障害なく可能かを確認します。(床の底上げなども確認します)助手席は運転席のフットルーム(シートからペダルまでの距離)より狭くなってははいけません。審査は通常のドライビングポジションで行います。

インストールの視覚的第一印象 (0~10ポイント)

コンポーネントのインストールが完了していることかを確認します。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス(取り付けが完了していないコンポーネントごとに1点を差し引きます)

3.3 インストールのルール:M(Master)カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中観客に車両とインストールを見せてください。サウンドシステムを聞かせるようにしてください。システム図を用意してください。1日に数回チェックされます。

例外: イベントでのジャッジ担当者/イベント運営事務局のスタッフ

観客に対するプレゼンテーション(ボーナスポイント) (0~5)

イベント期間中の車両やインストールのプレゼンテーション活動に対するボーナスポイントです。

クリーン (0~6)

車両外部は洗車、インテリアは掃除機で清掃されていなければなりません。

洗車されているか y/n、車室内は掃除機で清掃されているか y/n、トランクは掃除機で清掃されているか y/n (清掃されていない箇所に付き 2 点を差し引きます)

システムの文書 (0~10 ポイント)

信号の伝達経路図、ケーブル/ヒューズのシステム図やアクセス出来ない接続やコンポーネントの文書(フォトリログなど)を確認します。文書で説明されていないコンポーネント毎に 1 点を差し引きます。

審査員への説明 (0~5 ポイント)

車両のオーナー/専任の発表者が(動画は認められません)、どのように取り付けされたかなどを、7 分以内でシステムを審査員へ説明します。プレゼン時間を 30 秒過ぎる毎に 1 点減点されます。

ヒント: ブランドや完成品の話ではなく、なぜ? どのように? その取り付けにしたのかにフォーカスする事。

メインヒューズ (0 または 10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラスのバッテリーポストから 40cm 以内に、もしくは金属パネルを通過する前にヒューズを取り付けなければなりません。電源回路図が無い場合は 0 点になります。

コンポーネントのヒューズ (0~15 ポイント)

オーディオに関連する全てのコンポーネントのヒューズを確認します。全てのヒューズは 3 分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ(ヒューズが取り付けされていないもしくは確認出来ない場合、コンポーネントごとに 2 点を差し引きます) 電源配線図が審査に必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0~20 ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けされているか確認します。

ケーブルサイズ(mm ²)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

全てのヒューズは 3 分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。(ヒューズが取り付けされていないもしくは確認出来ない場合、コンポーネントごとに 2 点を差し引きます)

視界から隠したインテリアケーブル (0~5 ポイント)

運転席から全ての取り付けたシステムのケーブルが視認できないことを確認します。視認できるケーブルごとに 2 点を差し引きます。スマートフォン、タブレット、ストレージなどのモバイル機器を接続するケーブルは見えていても構いません。

ケーブルの適切な末端処理 (0~5 ポイント)

ケーブルの適切な末端処理を目視もしくは文書で確認します。適切な末端処理されていないケーブル毎に 1 点を差し引きます。

ケーブル終端の適切な保護 (0~10 ポイント)

ケーブルと端子の接続が短絡しないように保護されているか、湿気などに対しての適切な処置を目視もしくは文書で確認します。適切な保護されていないケーブル毎に1点を差し引きます。

損傷からのケーブル保護 (0~5 ポイント)

金属パネルを通るすべてのケーブルは、グロメット/保護スリーブ/チューブなどで保護しなければなりません。また、鋭い金属先端部、熱放射、湿気、可動部品、最重要メカニズム、振動による摩耗などといった危険要素から適切に保護しなければなりません。適切に保護されていないケーブル毎に1点を差し引きます。

コンポーネントの確実な取り付け (0~24 ポイント)

全てのコンポーネントが固定されているか確認します。

ヘッドユニット y/n、その他のデバイス y/n、アンプ y/n、スピーカー y/n(固定されていない箇所毎に2点を差し引きます)

スピーカーの保護 (0~5 ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例:Aピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径3cmの円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができずはいけません。スピーカー当たり少なくとも1個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに2点を差し引きます)他のスピーカーは保護が必要ありません。

通常の車両使用 (0~6 ポイント)

運転席/助手席共に快適に座る事が可能か、車両操作が障害なく可能かを確認します。(床の底上げなども確認します)助手席は運転席のフットルーム(シートからペダルまでの距離)より狭くなつてはいけません。審査は通常のドライビングポジションで行います。

インストールの視覚的第一印象 (0~10 ポイント)

コンポーネントのインストールが完了していることかを確認します。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス(取り付けが完了していないコンポーネントごとに1点を差し引きます)

クラフトマンシップ (0~10 ポイント)

ケーブルのルート、接続方法、コンポーネントの取り付け、パネルの取り付け、表面加工、ギャップなどを以下のカテゴリで確認します。ワイヤリング、ヘッドユニット、アンプ、スピーカー、その他のコンポーネント。要素毎に最大2点を差し引きます。

3.4 インストールのルール: X(Expert)カテゴリ(無制限)

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中観客に車両とインストールを見せてください。サウンドシステムを聞かせるようにしてください。システム図を用意してください。1日に数回チェックされます。

例外: イベントでのジャッジ担当者/イベント運営事務局のスタッフ

観客に対するプレゼンテーション(ボーナスポイント) (0~5)

イベント期間中の車両やインストールのプレゼンテーション活動に対するボーナスポイントです。

クリーン (0~6)

車両外部は洗車、インテリアは掃除機で清掃されていなければなりません。

洗車されているか y/n、車室内は掃除機で清掃されているか y/n、トランクは掃除機で清掃されているか y/n(清掃されていない箇所に付き2点を差し引きます)

システムの文書 (0~10 ポイント)

信号の伝達経路図、ケーブル/ヒューズのシステム図やアクセス出来ない接続やコンポーネントの文書(フォトリログなど)を確認します。文書で説明されていないコンポーネント毎に1点を差し引きます。

審査員への説明 (0~10ポイント)

車両のオーナー/専任の発表者が(動画は認められません)、どのように取り付けされたかなどを、15分以内でシステムを審査員へ説明します。プレゼン時間を30秒過ぎる毎に1点減点されます。

メインヒューズ (0または10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラスのバッテリーポストから40cm以内に、もしくは金属パネルを通過する前にヒューズを取り付けなければなりません。電源回路図が無い場合は0点になります。

コンポーネントのヒューズ (0~15ポイント)

オーディオに関連する全てのコンポーネントのヒューズを確認します。全てのヒューズは3分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ(ヒューズが取り付けされていないもしくは確認出来ない場合、コンポーネントごとに2点を差し引きます)電源配線図が審査に必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0~20ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けされているか確認します。

ケーブルサイズ(mm ²)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

全てのヒューズは3分以内(全てのヒューズ合計で)に確認出来なければならない。(ヒューズが取り付けされていないもしくは確認出来ない場合、コンポーネントごとに2点を差し引きます)

視界から隠したインテリアケーブル (0~5ポイント)

運転席から全ての取り付けられたシステムのケーブルが視認できないことを確認します。視認できるケーブルごとに2点を差し引きます。スマートフォン、タブレット、ストレージなどのモバイル機器を接続するケーブルは見えていても構いません。

ケーブルの適切な末端処理 (0~5ポイント)

ケーブルの適切な末端処理を目視もしくは文書で確認します。適切な末端処理されていないケーブル毎に1点を差し引きます。

ケーブル終端の適切な保護 (0~10ポイント)

ケーブルと端子の接続が短絡しないように保護されているか、湿気などに対する適切な処置を目視もしくは文書で確認します。適切な保護されていないケーブル毎に1点を差し引きます。

損傷からのケーブル保護 (0~5ポイント)

金属パネルを通るすべてのケーブルは、グロメット/保護スリーブ/チューブなどで保護しなければなりません。また、鋭い金属先端部、熱放射、湿気、可動部品、最重要メカニズム、振動による摩耗などといった危険要素から適切に保護しなければなりません。適切に保護されていないケーブル毎に1点を差し引きます。

コンポーネントの確実な取り付け (0~24ポイント)

全てのコンポーネントが固定されているか確認します。
ヘッドユニット y/n、その他のデバイス y/n、アンプ y/n、スピーカー y/n(固定されていない箇所毎に 2 点を差し引きます)

インストールの視覚的第一印象 (0~10 ポイント)

コンポーネントのインストールが完了していることかを確認します。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス(取り付けが完了していないコンポーネントごとに 1 点を差し引きます)

クラフトマンシップ (0~50 ポイント)

ケーブルのルート、接続方法、コンポーネントの取り付け、パネルの取り付け、表面加工、ギャップなどを以下のカテゴリで確認します。ワイヤリング、ヘッドユニット、アンプ、スピーカー、その他のコンポーネント。要素毎に最大 2 点を差し引きます。

インテリアのデザイン (0~10 ポイント)

インテリアに取り付けられた全てのコンポーネントに鮮明なデザインアイデアがあるかどうか確認します。デザインアイデアに沿っていない要素毎に 1 点を差し引きます。

トランクのデザイン (0~10 ポイント)

トランクに取り付けられた全てのコンポーネントに鮮明なデザインアイデアがあるかどうか確認します。デザインアイデアに沿っていない要素毎に 1 点を差し引きます。

車両全体のデザイン (0~10 ポイント)

満点を取得する為には、車両自身と取り付けられたコンポーネントが車両全体(内装や外装、トランクルームも含めて)のデザインテーマに沿っている必要があります。ジャッジや観客に対して明白なデザインコンセプトでなければなりません。デザインアイデアに沿っていない要素毎に 1 点を差し引きます。

ボーナスポイント (0~100 ポイント)

ボーナスポイントは取り付けの要素に与えられます。

-驚異的な方法でコンポーネントが魅せられている

-観客を惹きつける要素

-システムのインストールによって車両の通常使用が犠牲にならない

-創造的なシステムのプレゼンテーション

コンペ参加者はリスト(最大 50 項目)を提出しなければなりません。1つの要素で最大 3 点が追加されます。(1 点はアイデアに対して、残りは実現性の程度により 1 点から 2 点が追加されます)

4 EMMA ルール サウンドクオリティ

4.1 審査前のチェック

4.1.1 充電器が接続されているかのチェック y/n

- サウンドクオリティの審査を開始する前に、ジャッジは充電器/外部電源が接続されているかを確認し、コンペ参加者にそれを外すように要求します。
- サウンドクオリティの審査中は、車両のバッテリーとシステムに接続されている追加バッテリーを除き、電源装置の使用は禁じられています。
- バッテリーシステムを除き、ソーラーパネル、発電機、燃料電池といった追加電源は認められません。そうした追加電源は接続を外すか運転を停止し、バッテリーへの充電を停止します。
- ジャッジは充電器が接続されていないことを、スコアシートの該当するチェックボックスに記録します。

4.1.2 妥当な運転座席位置の確認 y/n

- サウンドクオリティの審査を開始する前に、ジャッジは SQ 審査のためにシートを調整した状態でコンペ参加者がギアスティック、ステアリングホイール、ペダルを操作できることをチェックし、妥当な運転座席位置であることを確認します。身長が 1.70m 未満のコンペ参加者に限り例外を認めます。
- ジャッジは妥当な運転座席位置であることを、スコアシートの該当するチェックボックスに記録します。

4.1.3 チャンネルの確認

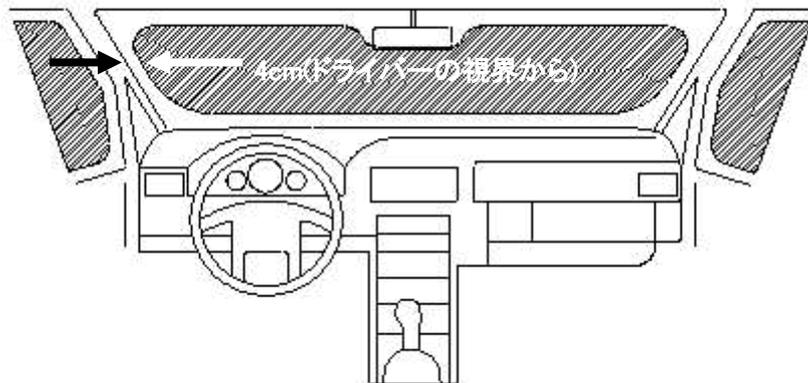
- 公式 EMMA サウンドクオリティソースのチャンネル識別トラックを使用します。システムの左右チャンネルの完全性が適切であれば、ジャッジはそれをスコアシートに記録します。チャンネルが逆になっていることに気づけば、ジャッジはそれをコンペ参加者に伝えます。そしてコンペ参加者に対し、「トラブル」を5分以内に解決するチャンスを与えます。トラブルが解決できなかった場合、コンペ参加者がシステムの審査を望むかどうかを決定します。

4.1.4 ボリュームの較正

- サウンドジャッジがリスニングするボリュームをコンペ参加者が提案します。ただし高過ぎるレベルのボリュームからジャッジを守るため、ピンクノイズ(アンウェイトスロー測定)は93dBを上回ってはいけません。
- ボリュームが低すぎる場合はコンペ参加者がそのままのボリュームで審査を開始するか、審査員にボリュームを新たに設定してもらうか決めることが出来ます。
- ディスプレイのデジタル示度、あるいはボリュームコントロールの角度を、スコアシートの所定のボックスに記録します。
- さらに、EMMA サウンドクオリティソースの再生に用いられた装置をスコアシートに記録します。

4.1.5 視界制限

サウンドクオリティのジャッジはリスニングポジションでダッシュやピラー、ドアへの取り付けによって視界制限されているかどうか確認します。必要であればジャッジは測定します。このルールはフロントウィンドウとフロントサイドウィンドウに適用されます。A ピラーの一部として三角窓があり、サイドウィンドウの高さの半分より高いまたは長い場合、窓とみなし、視界制限のルールを適用します。



視界制限がある場合、そうした要素毎に3点を差し引きます。最大で6点減点します。

暗色で示した領域には何もインストールしてはいけません。(X 無制限クラスには適用されません)

また、サイドミラーへの視界は確保されていなければなりません。(助手席側サイドミラーが取り付けされていない場合、リアミラーは背後全体を見渡せなければなりません)

サウンドクオリティに関する一言

優れたオーディオシステムは正確な周波数応答とステージングを提供することでオリジナルの録音を忠実に再生します。優れた周波数応答は、シンバル、人の声、ほとんどの楽器などの高音から、シンセサイザーやドラムなどの非常に低い音までを再生します。周波数応答には、音質(楽器の正確な再現)、リニアリティ(ボリュームレベルにかかわらず同一音の音質)、クラリティ(オリジナルの信号のひずみのなさ)が含まれます。優れたステージングは、ステージ上に演奏者がいるかのような錯覚を与えるもので、高さ、幅、奥行きといった感覚があります。イメージングとは、想像上のステージの適切な場所に楽器を配置できるサウンドシステムの能力です。

4.2 イメージング特性

4.2.1 イメージング 位置

サウンドステージは、サウンドステージの審査中に特定した左右の境界によって定義されます。

ステージングおよびイメージング用の専門トラック(Track2-6)を用いて 5 つの位置を決定します。中央位置は、ステージングの審査で特定した最も左と最も右の正確な中間でなければなりません。左中間は最も左の位置と中央との正確な中間でなければなりません。右中間は最も右の位置と中央との正確な中間でなければなりません。これはすべての位置が等間隔でなければならないということを意味します。サウンドが聞こえるべき位置から聞こえていない場合、その位置に対するスコアを減点します。各位置の基準として、人間の声を使用します。

4.2.2 イメージング フォーカス

ステージングおよびイメージング用の専門トラック(Track2-6)を用いて審査します。5 つの楽器が再生され、サウンドステージのフォーカスを審査します。フォーカスとは各楽器の正しい大きさのことであり、各音色の大きさは相対的に判断されます。

4.3 サウンドステージとイメージング特性

オーディオシステムが作り出すサウンドステージは、サウンドがそこから発生する知覚上の空間、と定義することができます。コンサートホールのステージと同様に、その空間からサウンドが生み出されます。「イメージング」という用語は、各楽器のサウンドを、サウンドステージにおける適正な楽器位置と割合で再現できるサウンドシステムの能力を意味します。審査の目的は、カーオーディオシステムが作り上げるサウンドステージの境界を明らかにすることです。イメージングを正しく審査するためにはこの境界を特定する必要があります。各項目は Track7 を用いて審査します。

4.3.1 サウンドステージ サウンドステージまでの距離

リスナーの位置を基準に音場が始まる場所を審査します。センターで再生される楽器によって判断されます。

4.3.2 サウンドステージ サウンドステージの幅

サウンドステージの幅は、車両に対して最も左側の位置から、最も右側の位置までの距離を審査します。

4.3.3 サウンドステージ サウンドステージの高さ

サウンドステージの高さは、地平面に対する見かけの高さ(サウンドステージの全幅におけるサウンド発生点)であり、その高さが全周波数域でどれだけ安定しているかが問題となります。その目的は、車両空間の自然な感覚においてその点よりも上方の水平レベルに「安定した」サウンドを作り上げることです。楽器と声のすべてがその高さで発生し、その一部でもサウンドステージより下から聞こえないことが望ましいです。ステージの高さが左から右まで安定するように特に注意を払ってください。車両によっては中央では適正な高さであるものの、左右の境界では高さが低くなる場合があります。そうしたケースは採点に反映されます。ボーカルと楽器はすべて同一の基準高にあることが望ましいです。

4.3.4 サウンドステージ ルームインフォメーション

ルームインフォメーションやアンビエンスは、音源の周りに知覚される空間と定義することができる心理音響的現象です。ルームインフォメーションはスコア化されます。(左/右、フロント/リア、フロア/天井)

簡単に言えば、もしもレコーディングが大教会におけるものであれば、サウンドシステムは教会で音を聞いているような印象を残すのでなければなりません。レコーディングが反響のないスタジオでのものであれば、アンビエンスという感覚は生まれません。

4.4 音色の正確性

4.4.1 音色の正確性と全体的なスペクトルバランス

Track8, 9, 10, 11 を使用して審査します。サウンドシステムは録音をできる限り本物に近く現実的に再生しなければなりません。ライブ録音であればそのように聞こえなければなりませんし、スタジオ録音であれば、制作者の意図にできるだけ近いサウンドでなければなりません。そのため EMMA はサウンドクオリティジャッジに、EMMA サウンドクオリティレコーディングがどのように録音され、どのようなサウンドになるべきかを正確にすべてを理解できるような訓練を行っています。可聴周波数域を 4 区間に分け、それぞれで音色の正確性を採点するのは有用な方法です。

- サブベース

- ミッドベース
- ミッドレンジ
- 高域

可聴周波数域全体の全体的なスペクトルバランス

音色の正確性に関しては、ジャZZは各音域に集中し、スペクトル全体のスペクトルバランスは無視します。全体的なスペクトルバランスに関しては、ジャZZは4つの区間がどのように組み合わせられ、EMMA サウンドクオリティレコーディングのオリジナリティにできるだけ近似したピクチャー全体を作り出しているかを評価します。

サブベース(10Hz~60Hz)

このレンジでシステムが再生するサウンドは、すぐに認識可能で、現実的な加重がされており、明瞭であって、ひずみや突出部分があってはなりません。適切な伸びと突出部分の違いを認識することが重要です。突出部分とはサウンドの減衰期間におけるぼやけや誇張です。正確な低周波の伸びは望ましい特徴です。

ミッドベース(60Hz~200Hz)

ジャZZは中型打楽器(キックバスドラム、トムトム、大型コンガなど)、ベースギターやスタンドアップベースの中音域、ピアノやシンセサイザーの低音、男性の低音、ホルン、トロンボーン、チューバなどの低音に集中します。こうしたミッドベースは、なめらかで明瞭かつ詳細に再生されなければなりません。特にドラムやベースギターの打撃音と減衰に注意を払ってください。車両はリスニング環境としては小型であるため、このレンジでは共鳴、サウンドピーク、定常波に問題があるのが一般的です。最高レベルのシステムはこうした問題を克服しており、忠実性を損ないません。

ミッドレンジ(200Hz~3kHz)

このレンジには、ほとんどの録音で音楽情報の圧倒的の大部分が含まれています。ジャZZは以下に集中します。人間の声、金管楽器、木管楽器、弦楽器、以下の楽器の高音域: ベースギター、エレキギターおよびアコースティックギター、シンセサイザー、ピアノ、小型ドラムその他の打楽器。声は現実的に聞こえなければならず、特性の感じられないリングングや薄っぺらなサウンド、鈍さ、ひずみがあってはなりません。

高域(3kHz~不可聴)

ジャZZはシンバル、トライアングル、ベル、スネアドラムやリムショット、手拍子、シンセサイザーなどの高音、弦楽器や木管楽器の高音、声の歯擦音(s, f, t の音を誇張する傾向)に集中します。こうした音は正確でなめらかでなければならず、鈍すぎたり明るすぎたりしてはならず、また荒々しさや薄っぺらなサウンド、過剰な歯擦音、ひずみがあってはなりません。

審査員は、各周波数について相対的なボリュームではなくクオリティを聴いています。相対的なボリュームは、スペクトルバランスで審査される要素の1つです。

4.5 スペクトルバランス

前項ではサブベース、ミッドベース、ミッドレンジ、高域の4区間を個別に評価し、それぞれにポイントを与えましたが、ここではそれがどのように組み合わせられ、ピクチャー全体を形作っているかを評価します。どれほど適切なバランスで組み合わせられているかに応じて、ポイントを与えます。

優れたシステムはどんな審査用トラックでも自然に難なく再生します。脆弱なシステムはひずみ、不自然な味付け、ダイナミックレンジ不足、周波数応答の誤差などを示し、それがリスニングの疲労を生み出し、音楽を不自然なサウンドにします。審査用のトラックを聴いているとき、システムは現実の楽器や声と感じられるほどの錯覚を作り出していますか？ 各周波数レンジのエネルギー分布は適切で自然な響きを作り出していますか？ 各周波数レンジをシステムがどれほどなめらかに統合しているかに特に注意を払ってください。

公式 EMMA サウンドクオリティレコーディングで、審査に用いたのと同じトラックをジャZZがボリュームを+6dBに手作業で調整した上で再生し、サウンドシステムが全体的なスペクトルバランスを、ボリュームを上げる前と同じように再生できるかどうかを評価します。これによってサウンドシステムの動的な能力も知ることができます。高ボリュームレベルでもジャZZは同じ点をリスニングしますが、ソリッドで現実的なダイナミクスについても注意を払います。楽器は現実的な打撃音や衝撃音をささなければならず、またそれがひずみによって圧縮されてはいけません(アンプのクリッピングやスピーカーシステムの限界)。

4.6 リスニングの満足感

さて、ここまででサウンドクオリティジャッジはコンペ参加者のサウンドシステムをしばらく聴いてきたので、音楽がリスナーに与える喜びと音楽の音響的な印象を判断しなければなりません。専用のトラックはないので、リスニングの満足感はサウンドクオリティ審査プロセス全体におけるジャッジの経験を反映したものになります。

4.7 調整

SQ ジャッジはオーディオシステムを実際にリスニングし操作する一方、ノイズやシステム操作に関する調整も審査します。ジャッジはどんな理由で調整を採点したのかを、スコアシートのコメント欄に簡潔に記載します。適切に行われたインストールであれば、あらゆるリスニングレベルでまったくノイズはないはずです。ノイズとは、オリジナルの EMMA サウンドクオリティレコーディングには含まれていない音であって、車両のエレクトロニクス/充電システムかオーディオシステムのどちらかによって加わった音、と定義されます。

これは基本的にはシステムをどのように設定すべきか、というヒントです。ヘッドユニットは、アンプがクリッピングを発生する前にレンジの大半を利用できなければなりません。また、ゲインをあまりに低く設定すると、ヘッドユニットがアンプを最大出力レベルに到達させることができなくなります。ゲインをあまりに高く設定すると、(ヘッドユニットで)ボリュームがごく低いレベルであってもアンプはクリッピングを発生します。アンプは与えられたものを増幅します。RCA ケーブルは音声信号を運びますが、それと同時にアースや内部コンポーネントなどに起因するシステム内の「ノイズ」も運びます。ノイズは同じままですが、信号はボリュームと共に大きくなります。したがってボリュームを上げれば上げるほど音声信号はノイズレベルより大きくなり、したがって SN 比が改善されます。つまりアンプはノイズも増幅しますが、音声信号レベルが十分に高ければノイズフロアを知覚することはありません。ゲイン構造が不適切に設定されたシステムは、ノイズトラックを再生するとフルボリューム時にヒスノイズ、すなわち「静電」音を発します。こうした調整がアンプの出力に影響を及ぼさないことを忘れないでください。システムで最適なサウンドクオリティを得るために必要な入力信号量を設定すればよいだけです。

Track12 を用いて以下をチェックします。

システムノイズチェック

EMMA サウンドクオリティレコーディングには録音されておらず、オーディオシステム、車両、車両環境によって何らかの形で生じるノイズ。

潜在的なノイズには以下のものがあります：

ラッシュ音、ハム音、ヒスノイズ、フロアノイズ、パネルのがたつき、音の大きいファン、機械的なノイズなど

ノイズの審査には以下のルールが適用されます：

1. EMMA サウンドクオリティレコーディングの専用ノイズトラックを利用してノイズがないか各システムをリスニングし、もしも正規の審査中にノイズが聞こえれば、ポイントを差し引きします。
2. ジャッジはスコアシートのポイント削減対象となるノイズ種類のすべてをリスニングしなければなりません。
3. ジャッジは通常の座ったリスニング位置でノイズが聞こえるかどうかを判断します。
4. ジャッジはどんな理由でスコアを変更したのかをスコアシートコメント欄に簡潔に記載しなければなりません。
5. 電気自動車は EMMA 競技会に参加できます。審査プロセス中、EPV は自力で動力を得る必要があります。
6. ジャッジはノイズがどこから発せられるか注意深く聞かなければなりません。発生源を特定するために頭を近づけることは可能です。

4.8 人間工学

オーディオシステムは操作中の快適性と車両安全性とが適正なバランスであることを実証しなければなりません。ジャッジが、運転席からオーディオシステムを混乱なく容易に操作できなければなりません。上述したユーザーが調整可能なコンポーネントについては、理屈にかなった車両運転中に運転席から全般に視認とアクセスができることが望ましいです。

便利さのためパッセンジャーコンパートメント内に設置した CD チェンジャーユニット、ハードドライブ、USB デバイスは考慮の対象外であり、ジャッジの採点でマイナス要因となることはありません。

ジャッジは自身が車両を運転しているかのようなつもりで、システム操作が容易であり、路面からの注意逸脱が最小限であることを判断しなければなりません。こうした条件に最も適合しているシステムにポイントを与えます。システム操作については、オーディオシステムのトラックの一時停止/ミュート、ボリューム操作、トラックの選択、早送り/巻

き戻しの操作、ディスプレイの視認性/可読性のみについて審査します。

コントロール装置を(たとえば盗難防止のために)覆っている布やカバーは取り外し、それがシステム操作の評価に影響を与えないようにしてください。

ジャッジは運転席に座ってオーディオシステムを操作し、上述したユーザーが調整可能なコンポーネントおよびコントロール装置を操作する際の難度や注意逸脱のレベルを判断します。

以下の項目が評価されます：

視認性、コントロール

注：

- ステアリングホールにリモートコントロールユニットを取り付ける場合、すべての位置でリモートコントロールユニットが機能する必要はありませんが、直進のホイール位置では機能しなければなりません。
- リモートコントロールユニットをインストールするのであれば、少なくとも以下の機能を持つものでなければなりません。ボリューム、トラックの選択、ポーズ/ミュート。さらにボタンにラベルを貼るか、どのように操作するかの説明書をジャッジに提供するかしなければなりません。
- 審査時に使用するボリュームコントローラーはここで評価します。
- モバイル デバイスを使用してシステムを操作する場合、競技者は画面がロックされないようにする必要があります。国内イベントの審査中に画面がロックされた場合、審査員は競技者に調整を求めます。これは、5 分間の修復時間の一部とみなされます。国内決勝 / 欧州決勝および競技者ブリーフィング中のイベントのアナウンスの場合、審査プロセス中に画面がロックされると、リスニングの満足感から 3 ポイントが差し引かれます。

5 全般的なコンペティションのルールと手順

5.1 全般

個別品目に対する総則として、本ルールブックに具体的な記述または説明がない品目については、EMMA ルールまたは国際ヘッドジャッジ協議会が別段の規定を定めるまでその品目は違法と判断します。ルール、方針、手順については、カーオーディオ産業の発展に応じて修正を行います。ルールブックへの追加は JCACA ホームページ (www.jcaca.or.jp) に発表すると共に、冊子版のルールブックにおいても該当項目の入れ替えまたは明確化を行います。いずれの場合も、追加として記述し更新した項目は、更新した冊子版のルールブックでそれとして明示し、発行日から効力を持つものとします。

以下に示す方針、手順、ルールは、EMMA 公認イベントに参加するすべてのコンペ参加者、役員、ジャッジの助けとなるように制定したものです。このルールとガイドラインは、数多くのメーカー、小売業者、コンペ参加者が、公平で偏りのない審査基準を作るという目的のため多大の時間をかけて調査を行い、完成したものです。イベント中に発生し得るすべての問題や問題の組み合わせを予見することは不可能ですが、何らかの問題や懸念が発生した際、それへの対応はヘッドジャッジ、イベントディレクター、EMMA 審査委員会の判断にゆだねるものとします。

国際イベントにおけるすべてのコミュニケーションは英語で行うものとします。この規定は、それが車両の展示と抗議のいずれであれ、書面、言明、その他のいずれの形式であれ、すべてのコミュニケーションに適用されます。必要な場合、コンペ参加者は通訳を利用することができます。ただし通訳の利用や用意はすべてコンペ参加者が責任を負わなければなりません。

ルールブックに関する問題や懸念が生じた場合、イベントのヘッドジャッジまたはイベントディレクターが問題処理のためその概要を EMMA 事務局に伝え、さらに、再検討と措置を講じるため国際ヘッドジャッジ協議会に伝えるものとします。

イベント当日に発生したジャッジをめぐるトラブルについては、ヘッドジャッジまたはイベントディレクターがそれを解決しなければならず、その情報をつねに全員に周知すると共に、適切な行動が取れるようにシステムをチェックしなければなりません。ヘッドジャッジが解決したトラブルは EMMA 事務局に伝えるものとします。

ルールに関する修正を行うことができるのは、現場にいる EMMA 公認ヘッドジャッジならびに国際ヘッドジャッジ協議会だけです。ルールについての追加項目は JCACA の公式ホームページ (www.jcaca.or.jp) に発表します。

以上の総則は、EMMA のルールに基づき開催されるすべてのコンペティションに適用されます。

5.2 登録

1. いずれの法人も EMMA イベントに参加することができます。これに該当するのは男性または女性と、一体となって行動できる人間グループまたは法人です。協会、財団、組織、企業などもこれに該当します。これは決して一人の人だけを意味するわけではありません。ルールブックの他の個所では、これに該当する人をコンペ参加者と呼びます。
2. コンペティションにエントリーする車両は(一時的にせよ)登録を行い、走行許可を得る必要(X クラス除く)があります。車両はそれ自体のエンジンで走行できなければなりません。
3. 車両は所有者の名前または商号で登録するか、あるいは要求されればコンペ参加者が車両の主な利用者であることを証明できなければなりません。
4. 州または国内の法律要件にかかわらず、車両に関する有効な登録証や権限証明書、あるいはその FAX を、要求があれば提出し車両の所有権を証明することができなければなりません。
5. コンペティションのために登録した車両は、(コンペティションの重要部分を担う)審査プロセスに提示し使用できなければなりません。さもないと登録は無効になります。
6. 参加者、車両、モバイルメディアシステムに関するエントリー登録情報に改竄や虚偽があった場合、ただちに資格喪失となることがあります。これに該当した者は、コンペティションシーズンの残りについて国内団体または EMMA からコンペ参加が禁止されることもあります。
7. コンペ参加者登録書式に対し、以下の詳細な項目を、事前にインターネット経由で、あるいはコンペ当日に手書きで、すべて記入しなければなりません。(国内団体によってはインターネット経由の登録しか受け付けないところもあります)
 - フルネーム
 - イベント当日連絡の取れる(携帯)電話番号と可能であれば電子メールアドレス
 - 車両がコンペに参加するカテゴリとクラス
 - 車両情報や取り付けられた部品全てのメーカー
 - イベントの日付と場所(登録書式はイベントごとに別々に記入しなければなりません)
8. 登録料はイベント開始前までに運営団体に現金で支払わなければなりません。金額は国内団体のルールによって異なります。場合によっては参加確認のため、コンペ参加者がイベントに先立って運営団体の口座に電信送金することが求められることもあります。
9. コンペ参加者は 1 つのイベントで同一車両にて 1 つのカテゴリにエントリーすることができます:
 - C
 - E
 - S
 - M
 - X
10. コンペ参加者は 1 つのイベントで複数の車両をエントリーすることができます。資格取得ポイントは、参加したカテゴリ/クラスのコンペ参加車両にのみ与えられます。

5.3 エントリー条件

- カテゴリとカーオーディオシステムの総額によってコンペ参加者を分けます。詳しくは「カテゴリとクラス」の項目を参照して下さい。
- 全ての車両は公道で走行するために法的に登録されていなければなりません(X 無制限除く)
- 全ての車両は独自のエンジン(ガソリン、ディーゼル、電気、燃料電池など)で競技エリアに移動しなくてはなりません。
- コンペ参加者は、インストールし有効なすべての部品に応じたクラスに登録しなければなりません。カーオーディオシステムの総額や登録時に申告したユニットに不一致のあることが審査終了後に明らかになった場合、コンペ参加者は失格となることがあります。
- オーディオシステムはプロによってインストールできます(全てのクラスに適用されるルール)。
- 主電源スイッチは、すべてのオーディオ システム コンポーネントのオン/オフを制御する必要があります(これには、ソースからスピーカーまでの信号チェーン内にあるすべてのコンポーネント、または自己電源式ポータブルデバイスを除くオーディオ システムの動作に関連するすべてのコンポーネントが含まれます)。ソース ユニットに従来の電源スイッチがなく、イグニッションスイッチが使用できない場合は、オーディオ

オシステム全体の電源の ON/OFF を 1 つの外部スイッチで指定できます。前述のように、ポータブルデバイスは主電源スイッチでオフにすることは想定されていません。

- 幹線(たとえば 100~240V)用に生産された装置の使用とインストールは、それが他の装置のためである場合に限り許されますが、SQ 審査中にそれを利用することはできません(たとえば何らかの種類のソースユニット、処理装置、アンプ、ディスプレイなど)。
- イベントのジャッジ担当者であっても、自身の車両でコンペに参加することはできませんが、同じカテゴリ/クラスでジャッジを下すことはできません。
- ヘッドジャッジ/イベントディレクターも、その任にあるイベントでコンペに参加することができます。その場合、自身が参加するクラスについての権限はその資格を持つ他のジャッジに譲らなければなりません。

5.4 コンペティション当日について

1. コンペ参加者は、発表された時刻(たとえば 9:00。この時刻は例であり、異なる場合があります)までに搬入を済ませなければなりません。その時刻から 30 分後(たとえば 9:30)までに搬入を行わない場合、(ヘッドジャッジ/イベントディレクターが署名する)スコアシートから 10 ポイントが差し引かれます。60 分後までは、当該カテゴリ/クラスの他のコンペ参加者が同意すればコンペティションに参加することができます。他のコンペ参加者のうち一人でも、遅れての参加に異議を唱える者がいればコンペティションに参加することはできません。異議を唱えるコンペ参加者は合理的な説明を提示しなければなりません(たとえば遅刻者の方が自分よりも成績がいいかもしれないから、というのでは十分な理由にはならず、合理的な説明ではありません)。
2. すべての車両はそれ自体のエンジンで審査エリアまで走行しなければなりません。イベントまでの移動途中に車両にエンジントラブルが発生した場合、ポイントを差し引くかどうかの判断をヘッドジャッジまたはイベントディレクターが下します。エンジントラブルが発生した場合、運営団体にできる限りすみやかに連絡しなければなりません。審査エリアは、イベント内の指定区域(たとえば第 5 ホール)で行い、場合に寄っては他の審査エリアへ移動しなければなりません。
3. 登録後、コンペ参加車両は指定区域内に駐車しなければならず、運営団体/スタッフの指示に従ってください。
4. 審査エリアに進入する車両には、その車両を登録した人や運転助手(3名以上は不可)が随行しなければなりません。コンペ参加者と運転助手は、審査エリア内に入ればジャッジ、ヘッドジャッジ、運営団体役員のすべての指示に従わなければなりません。
5. 審査プロセスを開始する前にヘッドジャッジが概要説明(エントラントミーティング)を行いますので、ジャッジとコンペ参加者はそれに必ず出席してください。2 日間にわたる EMMA イベントの場合は、どのクラスをどちらの日に開始するかは主催者/国内団体が決定します。その情報は国内団体または国際団体のウェブサイトに事前に発表します。
6. ジャッジが審査を開始する場合、その日の最初のコンペ参加者に合図し、5 分以内に車両審査の準備をしなければなりません。タイムスケジュールを使用している場合には、車両は所定時刻の 1 時間前もしくは審査開始の 2 台前までに審査の準備が整っていなければなりません。審査開始時に準備が整っていなければ(もしくは車両付近に居ない)場合は、10 ポイント減点される場合があります。
7. 審査を開始する前に、ジャッジは審査メディアをコンペ参加者に渡し、コンペ参加者に最大で 2 分間の時間を与えてシステムのセッティングをチェックさせます。その上でシステムに対する審査を下します。ジャッジは DSP のセッティングのミス、一部のスピーカーの作動不良などの問題点に気がついても、それをコンペ参加者に伝達する義務は負っていません。与えられた 2 分の時間内にそうした点をチェックするのがコンペ参加者の責任です。コンペ参加者がシステムの機能不全やオペレータのミスが原因で納得のできないスコアが出たと感じた場合、その点をジャッジ(チーム)に申し出る権利があります。再審査を認めるかどうかはヘッドジャッジ/イベントディレクターが決定します。
8. コンペ参加者が機器の誤動作や操作ミスによってスコアに疑問が生じたと感じた場合は、審査員に知らせる権利があります。再審査が許可されるかどうかは、ヘッドジャッジもしくはイベントディレクターに任せられます。
9. 審査員は自身がコンペに登録している車両以外は調整や準備をすることは認められていません。発覚した場合は、審査員自身がコンペに登録している車両及びコンペ参加者も含めて 10 ポイント減点されます。
10. 通常は 1 名のジャッジしか割り当てないカテゴリでセカンドジャッジ/助手席側ジャッジを割り当てるかどうかは主催者が決定します。
11. インストールからサウンド審査までの間にインストールした装置を変更することは許されません(すなわちカバーを取り除く、減衰装置を取り付ける、グリルを取り外すなど)。この規定に違反した場合、問題をヘッドジャッジが審査したのち、当該のインストール欄に 0 ポイントが記載される場合があります。
12. イベントによってはプレステージングが必要な場合があります。

13. プレステージング中、担当のイベント実行委員がスコアシートの登録内容やコンペ参加者情報の欄をチェックします。その際、登録したカテゴリとクラスもチェックします。コンペ参加者のカテゴリとクラスについて疑念が生じた場合、そのイベントに限って適切なカテゴリ/クラスを決定するのはヘッドジャッジの責任です。
14. 正式な検査員または指名されたインストールジャッジは、各コンペ参加者の車両を検査し、車両情報またはシステムの説明として提供された情報を検証することができます。
15. この検査手順中、スタッフは提出されたコンペ参加者の装置リストまたはカーオーディオシステムの総額を確認するためであれば、オーディオシステム装置または車両の構成要素を分解するようコンペ参加者に要求できる権利を保持しています。時間的制約やその他の斟酌すべき事情によりプレステージング中にシステム/車両の検査を行うことができない場合、装置の審査中、あるいは審査プロセス後に検査を行うことができるものとします。この検査に応じない場合、獲得したすべての賞を没収し、失格とします。いかなる場合についても、ヘッドジャッジ、EMMA スーパーバイザー、EMMA 審査委員会、EMMA 理事の判断が最終のものとなります。
16. 分解中にサウンドシステムまたは車両に損害が発生した場合、ただちにヘッドジャッジまたはイベントディレクターに報告するようにしてください。
17. イベント中に発生した損害やシステム故障に対し EMMA が責任を負うことはありません。
18. 同一得点だった場合、SQ 審査のスコアが高い方、更に同一だった場合、音色の正確性とスペクトルバランスが高い方、更に同一だった場合、リスニングの満足感が高い方が上位となります。

5.5 イベントの種類

すべての EMMA 公認イベントについて:

本ルールブックと適切なメディア、あるいは提供されたオーディオファイル以外を使用してはなりません。

5.5.1 地方イベント

地方イベントは、小売業者、メーカー、他の公認団体が開催することができます。地方イベントの際、少なくとも 1 名の正式なジャッジがいなければなりません。地方イベントでは毎年の国内ファイナル参加資格を取得することができます。コンペ参加者が、国際的なコミュニティという発想から、EMMA 非加盟の国でコンペティション参加を開始することは大歓迎です。そうした参加者に対しては、コンペ参加の資格ポイントを与えます。

5.5.2 国内イベント

国内イベント(例;ファイナル)は、EMMA に加盟する国内団体あるいは EMMA 自体しか開催できません。国内ファイナルは EMMA 事務局の正式許可がなければ開催できません。国内ファイナルの参加者は地方イベント/国際イベントで参加資格を取得する必要があります。シーズン中に獲得した資格ポイントの上位 10 名にファイナルへの参加資格を与える方法を提案しています。

「外国の」コンペ参加者が国内ファイナルの参加資格を取得した場合、国内ファイナルで優勝することはできませんが、母国以外の国での国内チャンピオンになることはできません。外国の国内ファイナルに優勝した参加者は、欧州ファイナルへの参加資格を得ることができ(国内団体がそれを認めることが条件です)、その場合、優勝した国での参加を認めます。国内ファイナルには、公認ヘッドジャッジチームと正式な EMMA イベントディレクター1 名が必要です。

5.5.3 インターナショナルイベント

インターナショナルチャンピオンシップは EMMA インターナショナル事務局の許可がなければ開催できません。EMMA は主催者である国内団体と協力を深め、責任をもってイベントディレクター、ヘッドジャッジ、ジャッジチーム全体を派遣します。

インターナショナルチャンピオンシップ(例;ユーロファイナル)の参加者は事前に参加資格を取得する必要があり、資格を取得したのと同じカテゴリ/クラスで参加を開始しなければなりません。参加資格の取得は、国内団体開催のファイナルで第 1 位となるか、あるいはファイナルの開催がインターナショナルチャンピオンシップの直近または以降である場合には、国内ポイント表で最上位の参加者として選出されるかのどちらかです。1 ヶ国当たりの最大コンペ参加者数は、インターナショナルチャンピオンシップの遅くとも 3 ヶ月前にまでに発表します。いずれの場合にせよ、国内団体は EMMA がインターナショナルチャンピオンシップを開催できるように、遅くとも 2 週間前までに参加者のデータをノミネートすることが必要です。それを保証するのは国内団体の責任です。

サウンドクオリティの国内及び国際イベントについての注意点

同クラスに 14 人以上のコンペティターがいる場合、2つのグループに分けてそれぞれ上位 3 台を別のジャッジが審査して順位を決定することが出来ます。もしくは同じジャッジが 2 日間に分けて審査し、次の日に上位 6 台を選出して別のジャッジが審査します。

5.5.4 資格ポイント

国内ファイナルの資格取得については、以下のポイントが、コンペを行った車両およびカテゴリ/クラスに関するポイントとしてコンペ参加者のアカウントに与えられます。

第 1 位	10 ポイント
第 2 位	8 ポイント
第 3 位	6 ポイント
第 4 位	5 ポイント
第 5 位	4 ポイント
第 6 位	3 ポイント
第 7 位	2 ポイント
第 8 位	1 ポイント

注意: 資格ポイントは、人・車両・クラスの組み合わせに対して与えられるものです。この組み合わせに変更があればそのポイントは無効となります。

イベントで獲得したポイントは蓄積し、多くの場合、各国の EMMA 公式ウェブサイトに表示されます。

5.5.5 ワイルドカード

どこの EMMA 競技団体も年間3つのワイルドカードが与えられます。年間5つ以上の国内イベントを開催した場合、イベント回数ごとにワイルドカードは与えられます。インターナショナルサイトに登録されたイベントで開催 14 日前までに登録があったものをカウントします。1 つの国から 1 クラス最大 3 人、ヨーロッパ大陸のファイナルに参加することが出来ます。ワイルドカードを受けるコンペティターは少なくとも国内イベントで 1 回はコンテストに参加してなければなりません。ワイルドカードは国ごとに最大 12 枚です。自国以外からのヨーロッパ大陸へのエントリーは認められません。EMMA のイベントが無い国では更なるワイルドカードが与える事があります。全てのワイルドカードには EMMA 本部の認可が必要です。

5.6 エチケット

- EMMA のヘッドジャッジ/イベントディレクターあるいは公認された正式実行委員以外の者がコンペティション中にスコアシートやジャッジのセーフティーシートのスコアを見ることはできません。
- コンペ参加者は自身のインストールスコアシートを見てジャッジの説明を受けることができ、そのために最大で 5 分の時間が与えられます。スコアのつけ方に対し意見を差し挟むことはできません。コンペ参加者はインストール審査の説明を受けた後スコアシートに署名します。
- ファイナル以外のイベントでは、コンペ参加者は自身の SQ スコアシートを見てジャッジの説明を受けることができ、そのために最大で 5 分の時間が与えられます。スコアのつけ方に対し意見を差し挟むことはできません。コンペ参加者はこの場合、SQ 審査の説明を受けた後スコアシートに署名します。ファイナルではスコアの説明は無く、サインも求められません。
- コンペ参加者はスコアシートに署名を行うことでスコアを受け入れたことになり、抗議を表明する権利のすべてを放棄したことになります。
- さらに、署名を行ったスコアシートは EMMA とコンペ参加者の契約書であり、(不具合があった場合)ヘッドジャッジとコンペ参加者がイベントディレクターの判断と承認(署名)に基づいて変更する以外の変更を加えることはできません。
- 国内及び国際イベントでコンペ参加者がスコアシートに署名しなければならないにもかかわらずそれを拒否した場合、車両をロックしヘッドジャッジに連絡します。ジャッジがコンペ参加者に手渡す抗議書式を用意しておきます。
- 国内及び国際イベントで審査が下された後については、コンペ参加者には3つの選択肢があります。要請された時にスコアシートに署名する、抗議する、コンペティションから棄権する、です。コンペ参加者に疑念や抗議の意思がある場合、ヘッドジャッジに連絡し状況を説明します。
- トロフィー授与以前のどの時点であっても、コンペ参加者やジャッジは他のコンペ参加者との間で、他の車両やシステムの実際のスコアについての意見交換を行ってはなりません。
- 車両の審査後、コンペ参加者は要請されればすみやかに審査区域から退出しなければなりません。
- イベント中に不正行為が発覚したコンペ参加者は、失格となります。EMMA 事務局と EMMA 審査委員会は(たとえイベントが終了した後であっても)不正行為について再協議する場合があります。

11. 規則違反や不正行為を繰り返し行った場合、EMMA 公認イベントで取得し蓄積したポイントの全部または一部が取り消しになることや、今後全ての EMMA 公認イベントへの参加資格が認められなくなることがあります。極端な事例では、EMMA 事務局が不正行為を行ったコンペ参加者の名前を公表することもあります。
12. コンペ参加者やジャッジに対する罵倒や侮辱行為は許されるものではなく、イベントの失格ならびに賠償としてイベント登録料の没収となる場合があります。
13. 説明中にコンペ参加者本人以外がスコアシートを見ることがないようにするのは、ジャッジおよびコンペ参加者の責任です。他人のスコアシートを見ようとした(あるいは別の者に見せようとした)コンペ参加者は、5 ポイント剥奪される場合があります。
14. 審査プロセスを妨げたものは 5 ポイントの剥奪となるか、あるいはヘッドジャッジ/イベントディレクターの判断によりイベントから排除される場合があります(この規定はチームリーダーにも適用されます)。
15. 下品または不適切な品行を行ったコンペ参加者は、ヘッドジャッジ/イベントディレクターによってイベントから排除される場合があります、深刻な事例では当該の EMMA 国内団体が開催するその年または将来の全てのコンペティションから排除されることもあります。最悪の事例では EMMA 本部があらゆる EMMA コンペティションへの参加を禁止することがあります。
16. イベント中すべてのアラームシステムをオフにしておかなければなりません。アラームシステムが発動し、コンペ参加者はただちにアラームシステムをオフにしなかった場合、ヘッドジャッジが 5 ポイント剥奪することがあります。
17. EMMA コンペティションでは騒音を発生させる行為は禁止されており、発生させた場合、コンペ参加者はただちに参加資格を失います。
18. 審査員は、競技者から要請があってもスピーカーの取り付け角度やシステムの調整、使用しているブランドに関してコメントはしません。
19. コンペ参加者はジャッジに対し以下を期待することができます。
 - コンペ参加者に対し礼儀正しいこと。
 - EMMA 公認の服装をしていること。
 - 全てのコンペ参加者に対し公平で偏りのない評価を下すこと。
 - 適切な教育を受けた上でジャッジになったこと。
 - システムを改善するにはどうすればよいかのヒントをコンペ参加者に与えること。

5.7 抗議について

1. スコアの定義は、スコアシートに記載されたポイント、というものです。これには客観的な測定と同時に主観的な見解も含まれます。コンペ参加者が、ジャッジが意図的ないし非意図的に不適切なスコアや現行ルールブックの意図する解釈に反したスコアを記入したと感じた場合、コンペ参加者はそのスコアに対し抗議を行うことができます。ただし些末な抗議を防ぐため、コンペ参加者は抗議を行うことで 30 ポイントを失うリスクを負い、実際のスコアシートからこの 30 ポイントが差し引かれます。スコアが不適切であったと判断された場合、差し引かれたポイントが抗議を行ったコンペ参加者に返却されます。スコアが適切であった判断された場合、抗議を行ったコンペ参加者はスコアから 30 ポイントを失います。
2. コンペ参加者は、あるジャッジが主観的な審査を下しているとの抗議を提出した場合、その問題を解決できるのは当該ジャッジ本人だけであることを理解する必要があります。確認しなければならないのは、記載したスコアに当該のジャッジが自信を持っているかどうか、そしてルールの記述と解釈を当該ジャッジが完全に理解しているかどうかという点です。主観的な審査という項目のスコアに対し、別のジャッジやヘッドジャッジが審査のやり直しやスコアの修正を行うことはできません。ヘッドジャッジが不適切なスコアを発見した場合、ヘッドジャッジが適切な措置を講じます。審査をやり直す場合も、インストール部門における明白な項目、たとえば装置のゆるみや不適切なヒューズについて、あるいはノイズといったサウンド/ピクチャー部門における明白な項目については、変更することはありません。再審査の前にコンペ参加者の誰かがその点を修正し、本来のプロセスとは別物にしている可能性があるからです。
3. コンペ参加者は他のコンペ参加者のフェアプレイに疑問を呈することもできます。これにはカーオーディオシステムのユニットの不適切な総額やコンペ参加者のカテゴリ分け、不正行為やコンペ参加者に関する情報偽装などの疑いが含まれます。こうした疑問が提示された場合、抗議を受けたコンペ参加者の車両の分解や客観的主観的な再試験を行うことがあります。このような疑問の提示は、イベント会場でイベント当日にしか行うことができません。コンペ参加者が他のコンペ参加者の車両に疑問を提示し、ヘッドジャッジ/イベントディレクターが検証には分解または客観的主観的な再試験を行う必要があると判断した場合、抗議を行うコンペ参加者はその疑問提示に実際のスコア 30 ポイントを賭さなければなりません。抗議を受けた車両にルール違反が発見されれば、30 ポイントは疑問を提示したコンペ参加者に返却され、違反に対し適切な措置が講じられます。

一方、ルール違反が発見されなかった場合、抗議を行ったコンペ参加者は実際のスコアから 30 ポイントを失います。

4. 抗議を要求できるのは、当該イベントに登録している同一クラスのコンペ参加者だけです。コンペ参加者以外の者やチームリーダーが登録済みのコンペ参加者の代理として抗議を行った場合や抗議しようとした場合、ヘッドジャッジまたはイベントジャッジの判断により、その抗議者ならびに抗議者が代理しているコンペ参加者(チーム)をコンテストから排除することがあります。

5.8 抗議の要求手順

1. コンペ参加者は、自身が不適切だと感じるスコアがあれば、審査プロセスの直後にジャッジに指摘しなければなりません。ジャッジはヘッドジャッジまたは指名されたコントロールジャッジに連絡します。ヘッド(コントロール)ジャッジが抗議の根拠(スコアに対する論理的分析)に納得すれば、ヘッドジャッジはコンペ参加者に抗議の提出を許可することができます。この許可がない限り、いかなる抗議も提出することはできません。
2. 正式な抗議は書面でなければならず、またヘッドジャッジによる適切なポイントの差し引きを含みます。コンペ参加者は何に抗議しているかを記述すると共に、本ルールブックに基づきスコアはどうあるべきかの自身の意見も記載します。「スコアが低すぎるから」という理由での抗議提出は受け付けません。正式な抗議はヘッドジャッジに提出します。正式な抗議書式のみを使用し、審査終了から 30 分以内にヘッドジャッジまたはイベントディレクターに手渡さなければなりません。
3. ヘッドジャッジは関係するジャッジチームおよび第二ヘッドジャッジと抗議について協議しなければなりません。二人のヘッドジャッジでも解決策が見出せない場合、イベントディレクターが抗議に関する判断を下します。イベントディレクターは実際のジャッジでなければなりません。そうでない場合、担当のジャッジチームにいる有経験のジャッジに判断を仰ぎ、その記録を EMMA 審査委員会に提出します。
4. コンテストにおける抗議については、ヘッドジャッジ/イベントディレクターが判断を下します。ヘッドジャッジ/イベントディレクターの判断は最終のものであり、それに基づいて表彰式を行います。
5. コンペ参加者には自身の抗議を EMMA 事務局に送付する権利があります。EMMA 事務局は抗議を EMMA 審査委員会に転送します。EMMA 審査委員会はヘッドジャッジ/イベントディレクターの判断を再検討することはできますが、いかなる形にせよ結果を変更することはできません。
6. 抗議を求める要求は、当該クラスの審査が下された当日、表彰式が始まる少なくとも 4 時間前までに提出しなければなりません。

5.9 インストールクオリティの審査中の手順とルール

1. 詳細な写真記録を保存しておく、検査プロセスやインストール審査におけるシステムのプレゼンテーションに役立つほか、インストールジャッジの質問の多くに答えることが容易になります。
2. インストールクオリティの審査プロセスは、システムのプレゼンテーションから始まります。サウンドシステムのインストールをジャッジに説明するのは、登録した所有者/メイン利用者の責任です。何らかの理由で車両の所有者/メイン利用者が審査時に車両の説明ができない場合、指名された発表者が車両のプレゼンテーションを行うことができます。国内欧州の選手権大会では必ず登録した所有者/メイン利用者が車両の説明を行わなければなりません。それを行わないと、ジャッジはシステムのプレゼンテーションを 0 ポイントとします。
3. コンペ参加者には自身のシステム、インストール、アイデアを説明するのに 7 分が与えられ、車両のモバイル電子装置の特殊な要素を指摘することができます。翻訳者が必要な場合でも与えられる時間に変更はありません。その場合、コンペ参加者は母国語で話すことしか許されません。エキスパート無制限クラスは最大 15 分間与えられます。(翻訳の延長時間はありません)
4. ジャッジはプレゼンテーションの開始時刻を丁重にコンペ参加者に伝えます。プレゼンテーションの時間中、ジャッジがコンペ参加者を遮るようなことがあってはなりません。ジャッジはプレゼンテーションの終了時刻を丁重にコンペ参加者に伝えます。7 分または 15 分の時間が終了すれば、ジャッジはすぐにプレゼンテーションを停止させることができます。
5. コンペ参加者は、インストールが SQ の際と同じ状態であるかが丁重に尋ねられます(変更は許されていません)。イエスまたはノーの答えをインストールシートのチェックボックスに記入します。これを怠ると、ヘッドジャッジによる問題審査ののちにインストールに関する該当項目が 0 ポイントとなることがあります。
6. コンペ参加者は審査プロセスが完了するまで車両の近くにいなければなりません。コンペ参加者は質問に答えるよう求められた時やシステム要素について説明するよう求められた時を除き、審査プロセスを邪魔したり中断させたりしてはいけません。

7. ジャッジは審査終了後、採点をコンペ参加者に説明しなければなりません。これに5分以上の時間をかけてはいけません。ジャッジはコンペ参加者にスコアシートを見せなければなりません。5分を経過してもなお質問があった場合には説明を拒否することができます。
8. コンペ参加者がスコアシートを見て採点を受け入れたのち、スコアシートに署名を行わなければなりません。抗議は、ジャッジによる説明の直後に行わなければなりません。スコアシートに署名を行ったのち、採点について抗議することは認められません。
9. ジャッジは確実な取り付けを審査する際に必要以上に力を加えてはなりません。どのような重さのコンポーネントが装着されているか次第です。(例;Aピラーのツイーターはトランクのサブウーファーボックスと同じように固定されていなくても良い)
10. コンポーネントが確実に固定されていればその固定方法は重要ではありません。(例;木のプレートにネジで固定されている、板金に溶接されている)OEM ヒューズやアフターマーケットコンポーネントの純正ヒューズは、製造元が予期していない場合、特別な固定は必要ありません。
11. グリルやその他の保護に使用している要素は確実な固定では審査しません。
12. 取外し出来るヘッドユニットは多少のあそびがあるかもしれません。もしそうであればその部分を取り外して他の部分で審査します。
13. 外部デバイス:EMMA の審査に使用するレコーディングを再生できるデバイスが装着されてあったとしても電源がOFFの状態もしくは、接続を外している場合は審査の対象になりません。これはコンペ参加者によって証明する必要があります。またリアシートエンターテイメントにも同じルールを適用します。
14. 純正パネルにコンポーネントが装着されていて、そのパネルが確実に固定されていなかった場合減点の対象となります。(例;ツイーターを固定しているパネルのクリップが少し浮いていた)
15. コンポーネントが装着されていないグリルやその他の保護に使用している要素やカバーは確実な固定では審査しません。
16. ソースユニットやアンプによって駆動されるスピーカーを含む全ての再生機器は審査員によって審査されます。
17. 3cm 未満の隙間の保護バーは減点の対象にはなりません。
18. スピーカーのフェイズプラグは保護要素として認められません。
19. グリルクロスなどを張りつめた状態で取り付けするだけではスピーカーの保護としては認められず減点の対象になります。
20. スピーカーがエンクロージャーの中に取り付けられていて触ることが出来ないものや、エンクロージャーの外向きにバスケットが見える取り付けではスピーカーの保護が必要ありません。

5.10 サウンドクオリティのカテゴリとクラス

サウンドクオリティのコンペティションでは、本ルールブックのルールに基づき、最高のサウンドの車を持っているのは誰かを決定します。相応の人同士が競争できるようにするため、難度別にカテゴリを設けています。カテゴリによる差は、下される審査量の差です。エントリークラス(CやE)では、装置全体に関する数項目とサウンドスコアだけが審査の対象です。カテゴリが上がるにつれ、装置とサウンドについて次第に多くの項目が審査対象になります。どのカテゴリからスタートするか、それを決めるのはコンペ参加者です(条件を満たしていればカテゴリを上下に変更することは可能です)。こうしたシステムを通じて、コンペ参加者は車のモバイルメディアシステムについて知識を蓄えていくことができます。審査はどのように下されるのでしょうか?サウンドとインストールの両方を一連の基準に従って審査します。審査基準のリストは1つしかなく、経験を積みカテゴリが上がるにつれて審査項目は多くなります。こうしたルールであるため、例えばいつもは上のカテゴリに参加しているコンペ参加者が下のカテゴリに出ることにも何もう利になる点はありません。カテゴリはカーオーディオシステムの総額でクラス分けされます。

5.11 音楽の再生

EMMAは審査に使用する全てのオーディオトラックをデジタルフォーマットでのみ提供し、WEB ショップ(<https://emmanetshop.com/>)からダウンロードする事ができます。すべての競技者がダウンロードしなければならないオーディオトラックには、wav や mp3 などの高解像度フォーマットが含まれます。どのファイルを競技に使用するかは、競技者次第です。審査員がオリジナルのオーディオトラックを審査に使用できるように、各競技者はオーディオシステムへのハードウェア接続を要求された場合には対応しなければならない。これは、オリジナルデータを使用することにより、競技車両間の公正な行為を予防するものである。さらに、国内および国際決勝大会に参加するすべての競技者は、競技に使用するファイルの法的認可の証明を提示できなければならない。これは、EMMA公式WEB ショップのダウンロードと同時に受け取る領収書のコピーを提示することで可能です。修正またはコピーされた

ファイルを使用する競技者は、EMMAが認可したいかなる競技会からも即座に追放される可能性があります。
注意: 全てのEMMAの楽曲は EMMA GmbH の著作権下にあり、許可なく複製することは違法です。

もし、審査用のファイルを競技者の端末に読み込む必要がある場合は、EMMAの公式ジャッジまたは審査員の立会いのもと、競技者のストレージデバイスにファイルを読み込まなければならない。競技者は、登録手続きの際にこの情報を提供する必要があります。EMMAのスタッフは、USB、SD、ラップトップなどの様々なハードウェアを提供します。その他の必要な部品はすべて競技者が持参すること。EMMAは、審査が終了するまで、ストレージデバイスを保管することができる。EMMAは紛失や破損の責任を負わないものとします。

審査のためにメディアのストリーミングを許可しています。ストリーミング機器は車内に固定する必要はありませんが(トラックを操作するために使用しない場合)、審査員がストリーミング機器を操作する機器は車内に固定する必要があります。

5.12 価格制限クラス

カテゴリによっては価格制限クラスがあります。コンペ参加者が EMMA バリューデータベースを活用して、適正なカテゴリで出場を開始できるようにすることは、各国内団体の責任です。

システムの総額は、(たとえ中古品を使用している場合でも)メーカーの希望小売価格の総合計(税抜)であり、すべての電子材料(ソースユニット、プロセッサ、アクティブクロスオーバー、アンプ、レギュレータ(純正除く)、すべてのスピーカーなど)を含みます。(※但し審査プロセスに使用する電子材料のみ)競技車両がメディアを再生する為に使用する全てのデバイスがシステムの総額にカウントされます。再生と操作に使用するデバイスもカウントされます。選曲などの操作を必要としない USB スティックや SD カード、ハードディスクドライブなどのストレージとしてシステム総額にカウントされません。取り付け材料(ケーブル、取り付けボード、パッシブクロスオーバー、ヒューズブロック、バッテリー、キャパシターなど)はいずれも総額に含まれません。コンペ参加者が製品を通常より安価に購入したかどうかや、中古品で購入したかどうかは問題ではありません。

平等な基準を設けるため、EMMA はコンポーネントのバリューを定めたデータベースを使用しています。国内及び国際イベントでの正確な計算と証明するための書類(EMMA Value Sheet)作成をサポートしています。データベースに商品の登録が無い場合は JCACA サイトのお問い合わせ受付より、①ブランド名、②モデル名、③分類(アンプやスピーカー等)、④標準小売価格、⑤価格証明のリンク先(WEB アドレス等)の 5 点をお知らせください。インターナショナルファイナルで使用する装置については、詳細な説明を記述しイベント前の認証および確認のため EMMA に送付しなければなりません。EMMA Value Sheet はジャッジに示されなければなりません。

EMMA データベースサイト(アジアリージョン)

<http://www.emmanet.com/value/?cmd=SGR®ion=3>

JCACA お問い合わせ受付 ※データベース登録完了までに時間がかかる場合もあります

<http://jcaca.or.jp/contactus>

純正コンポーネントを使用する場合は以下の金額で計算します。

OEM CD-チューナー €200
OEM リモートコントロール(追加) €50
OEM オーディオビデオユニット €500
OEM フロントスピーカー €250
OEM リアスピーカー €250
OEM センタースピーカー €250
OEM サブウーファー €250
OEM アンプ €500
OEM プロセッサユニット €300

価格制限クラスにおけるいくつかの例

・EMMA CD をヘッドユニットで再生する場合
ストレージデバイスは CD=ストレージなので総額にカウントされない

ヘッドユニット＝ユーザーインターフェイス＝総額にカウントされる

・①ストレージデバイス(信号はストレージデバイスからアンプに接続されている)を、②iPhone のアプリでコントロールしている。そして③“apple CarPlay”対応 OEM ヘッドユニットにて iPhone を操作している。

- ① ストレージデバイスはストレージなので総額にカウントされない
- ② iPhone＝リモートコントロールではないがユーザーインターフェイスである＝総額にカウントされる
- ③ CarPlay を使用した OEM ヘッドユニット＝これはヘッドユニットでもなくユーザーインターフェイスでもない＝iPhone のリモートコントロール＝総額にカウントされる

5.13 カテゴリクラスの変更

コンペティションシーズン中にクラスまたはカテゴリを変更しようとするコンペティション参加者は、同じシーズン中に少なくとも 1 回は新しいクラスまたはカテゴリのコンペティションに参加し、国内ファイナルの招待資格を取得する必要があります。それ以前に取得したすべての資格は、クラス/カテゴリの変更によって失効します。国内ファイナル後にカテゴリまたはクラスを変更した場合、その参加者はインターナショナルファイナルへの出場資格を失います。コンペ参加者が適正資格で参加するのを保証することは、各国内団体の義務です。

コンペ参加者はシーズン中にジャッジチームに加入した場合、あるいはカーオーディオ産業で勤務し始めた場合、その参加者はもう EMMA C、E、S に参加することはできません。前述のカテゴリにすでに参加していた場合、それ以前に取得したすべての資格は当該の時点で失効します。

5.14 SQ 審査について

サウンドクオリティの審査は、1 ないし 2 名のサウンドジャッジが公式 EMMA サウンドクオリティレコーディングを実際に再生して行います。ジャッジは特別な訓練を受けて資格を取得しており、EMMA サウンドクオリティレコーディング、EMMA サウンドクオリティルール、スコアシートをツールとして利用し、ステレオシステムやマルチメディアシステムのサウンド性能を評価します。

サウンドクオリティの審査後、コンペ参加者は車両にインストールしたサウンドシステムの音響性能について専門家による詳細で客観的な情報をフィードバックとして得ることができます。EMMA は、サウンドクオリティの部分をわかりやすく項目別に分けており、審査と評価はそれに基づいて行います。ジャッジがコンペ参加者に対して「あなたの車のサウンドは良い/悪い、あるいはあなたは何ポイント獲得した」などと発言することはありません。ジャッジは評価とスコアシートを使って、関連するすべての詳細な項目についてサウンドがどうであったかを正確に説明します。

つけられたスコアはコンペ参加者にとって理解しやすいものであり、必要ならば EMMA ルールブックを見て容易に理解できます。さらにコンペ参加者は自身のサウンドシステムの可能性についても学ぶことができます。それによってコンペ参加者、ディーラー、友人は、サウンドシステムを改善することができます。

5.15 シングルシート審査

全てのカテゴリを「シングルシート審査」します。これは、ジャッジが運転席に座って審査する事です。インターナショナルのコンペでは少なくとも2回審査され、2回目の審査までに30分以上の充電時間が与えられます。ローカルイベントでは教育を目的にジャッジが2人座って審査する事もあります。ステージングやイメージングは運転席側でスコアリングされますが、残りは平均化されます。セカンドジャッジが著しく音の妨げになっているとコンペ参加者が感じた場合、ヘッドジャッジに評価を正すように要求する事が出来ます。ユーロファイナルなどの国際イベントでは、コンペ参加者はそれ以前のイベントによってすでに資格を取得し、自身のシステムに関するフィードバック情報を得ているため、サウンド審査の結果についてコンペ参加者に説明を行うことはありません。説明を行うのは、技術的な機能不全(たとえばノイズ)だけです。コンペ参加者はセレモニーで全てのスコアシートのコピー、あるいは平均点を示したスコアシートを受け取ります。

5.16 サウンドクオリティ審査中の手順とルール

1. サウンドクオリティ審査では、車両は公道での使用時と同様に「運転できる状態」でなければならず、ウィンドスクリーン/ウィンドウカバー、カーテンなどは使用が認められません。また、SQ 審査はエンジンをかけた状態で

- 行います。
2. サウンドジャッジが聴取するボリュームは、コンペ参加者が提案します。ただし高過ぎるレベルのボリュームからジャッジを守るため、ピンクノイズ(アンウェイトスロー測定)は 93dB を上回ってはいけません。
 3. SQ 審査を開始する前に、コンペ参加者はシステム固有の操作上の特徴についてジャッジにアドバイスすることができます。フォーマットとカテゴリに応じて、コンペ参加者が所定区域まで進み、審査完了までそこにとどまることができます。
 4. 試験および採点中、ジャッジは車両のフロントシートに前方を向いて座らなければなりません。この規定はリムジンを含むすべての車両に適用されます。コンペに参加するすべての車両は、マルチメディアクラスを除き、少なくとも 2 席のフロントシートがなければなりません。2 席を超えるフロントシートがある車両(バンや特殊車両)については、コンペ参加者が助手席側ジャッジの座る場所を決めます。車両の審査をサウンドジャッジ 1 名だけで行う場合、ジャッジは運転席に座らなければなりません。審査中、ウィンドウとサンルーフは閉じておく必要があります。コンバーチブルについては、コンペ参加者が希望し、気象条件が適切であれば、ルーフを折りたたんだ状態で審査することができます。
 5. ジャッジは、コンペ参加者がギアスティック、ステアリングホイール、ペダルを操作できることを確認します(注: コンペ参加者(背が低い)とジャッジ(背が高い)とで身長に過大な差がある場合については、コンペ参加者にとって妥当な座席位置でサウンドを審査するようジャッジに要求してはなりません。その逆の場合には、クッションなどを用いて身長差を調整することができます。妥当な運転座席位置は、スコアシートのチェックボックスで認証します。
 6. コンペ参加者がギアスティック、ステアリングホイール、ペダルを操作することができない場合、ジャッジは審査を開始する前に合理的なドライビングポジションに変更するように要求します。
 7. コンペ参加者はジャッジに対し、妥当な(運転)位置に座るよう要請することができます。さらにコンペ参加者は、車両内のスピーカー配置(キックパネル、シート下への取り付け等)によるサウンドを、ジャッジがスコアシートで覆ったり足でふさいだりして妨げないように指摘することもできます。
 8. ジャッジは、コンペ参加者に要請することなくシートを再調整することはできません。
 9. ジャッジは、審査プロセス中に座る位置を変更してはなりません。
 10. サウンドクオリティの審査中にエアコンや暖房システムを利用するためエンジンをかけることを認めるかどうかは、ヘッドジャッジが判断します。エンジンの運転を認めた場合、ジャッジは審査中に静かな環境が得られるよう、車両の換気ファンを調整しなければなりません。※国内イベント(アジアファイナル除く)はエンジン ON で審査します
 11. ヘッドジャッジは審査前にジャッジおよびコンペ参加者に対し、サウンドクオリティの審査を、エンジンをかけた状態で行うか停止した状態で行うかを伝えます。この伝達は、コンペ参加者とジャッジのミーティングで行わなければなりません。すべての車両に対し一貫した審査を行う必要があります。斟酌すべき状況(極端に音が大きいエンジンなど)に例外を認めるかどうかはヘッドジャッジの裁量です。気候によっては、エンジンを止めるとジャッジに不相应な疲労や不快感を与えることがあります(極端な低温または高温の気候)。※国内イベント(アジアファイナル除く)はエンジン ON で審査します
 12. イベント開催場所によってはエンジンを掛けては行けないこともあります。この場合ノイズは全て 0 点としてスコアします。
 13. ジャッジは、サウンド性能に影響を及ぼす可能性がある行為は避けなければなりません(たとえば帽子/野球帽を着用しない、ガムを噛まない、携帯電話の電源を切る、採点ボードをどのように持つかに気を配る、など)。
 14. 審査員は自身がコンペに登録している車両以外は調整や準備をすることは認められていません。
 15. (コンペ当日)の担当ジャッジは、イベント中にコンペ車両を調整してはなりません(自らがコンペに参加している場合の自身の車両は除く)。
 16. ジャッジは自身が持った印象を確認するため、EMMA の公式審査用メディアの「追加トラック」を利用することができます。審査は予定通りのトラックで行います。
 17. ジャッジは視覚的な印象(たとえば、目立つスピーカー位置、あるいはその欠如)によって審査を左右させてはなりません。サウンドクオリティのジャッジは、車両内の装置に対し「盲目」でなければなりません。
 18. 可能または必要な場合、サウンドクオリティのジャッジはスコアシートに記載したメモ/説明について採点を説明するよう求められることがあります。
 19. SQ の審査中に装置の破損または車両の異常が発生した場合、コンペ参加者には異常を補正、修理するために 5 分間が与えられます。認められる修理作業は 1 回(5 分間が 1 回)だけです。トラブルが再発した場合には、そのままの条件で採点を続けます。また異常/破損があった場合、ジャッジがそれをヘッドジャッジに伝えなければなりません。スコアシートには「リペアタイム有」と記入します。
 20. ジャッジは審査によっては、スコアシートをコンペ参加者に見せ、採点に関する説明を行います。これには 5 分以上の時間をかけてはなりません。その 5 分の時間が過ぎたのち、ジャッジはそれ以上の意見を求められても拒否することができます。

21. 審査によっては、コンペ参加者はスコアシートを見て採点を受け入れたのち、スコアシートに署名を行わなければなりません。
22. コンペ参加者が何らかの理由で、ジャッジが提示した採点または説明を拒否する場合、この5分の時間内に行わなければなりません。抗議はジャッジによる説明の直後に行わなければなりません(総則の項目を参照)。スコアシートに署名を行ったのち、採点についてさらに抗議することは認められません。

6 審査マトリックス

サウンドクオリティのマトリックス							インストールのマトリックス				
		C	E	S	M	X		E	S	M	X
	ポイント	195	280	310	310	316		69	115	161	325
視界制限	-6 ポイント		○	○	○		観客に対するプレゼンテーション	10	10	10	10
サウンドステージまでの距離	15 ポイント	○	○	○	○	○	観客に対するプレゼンテーション(BP)			5	5
サウンドステージの幅	15 ポイント	○	○	○	○	○	クリーンさ	6	6	6	6
サウンドステージの高さ	15 ポイント	○	○	○	○	○	システム/ワイヤリング図	4	4		
ルームインフォメーション	5 ポイント			○	○	○	システムの文書			10	10
位置	25 ポイント		○	○	○	○	審査員への説明			5	10
フォーカス	25 ポイント			○	○	○	メインヒューズ	10	10	10	10
サブベース	30 ポイント	○	○	○	○	○	コンポーネントのヒューズ		15	15	15
ミッドベース	30 ポイント	○	○	○	○	○	電源ケーブルへの適切なヒューズ取付		20	20	20
ミッドレンジ	30 ポイント	○	○	○	○	○	視界から隠すインテリアケーブル		5	5	5
高域	30 ポイント	○	○	○	○	○	ケーブルの適切な末端処理			5	5
全体的なスペクトルバランス	30 ポイント	○	○	○	○	○	ケーブル終端の適切な保護			10	10
高ボリュームレベルでのスペクトルバランス	30 ポイント		○	○	○	○	損傷からのケーブルの保護			5	5
リスニングの満足度	30 ポイント		○	○	○	○	コンポーネントの確実な取付	24	24	24	24
スイッチングノイズ	-6 ポイント		○	○	○	○	スピーカーの保護	5	5	5	
ノイズ	-6 ポイント		○	○	○	○	通常の車両使用		6	6	
システムの操作	6 ポイント					○	インストールの視覚的第一印象	10	10	10	10
							クラフトマンシップ			10	50
							インテリアのデザイン				10
							トランクのデザイン				10
							車両全体のデザイン				10
							ボーナスポイント				100



JAPAN CAR AUDIO COMPETITION ASSOCIATION

